

視察用

様式(細則 5-2)

平成 年 月 日

浜田市議会議長
川 神 裕 司 様

議員名 上野 茂



調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成30年5月9日(月)～平成30年5月11日(水)

2. 視察先および研修テーマ
 - (1) 場所 栃木県佐野市 佐野市役所
内容 特定非営利活動法人エコロジーオンライン
 - ① 認知症ケアの取組について
「オトトカラダ」プロジェクト
 - ② カラフルファームの取組について

 - (2) 場所 埼玉県横瀬町 横瀬町役場
内容 官民連携のまちづくり「よこらぼ」について

3. 参加者 川上幾雄、永見利久、串崎利行、上野茂
田畑敬二、西田清久、澁谷幹雄、川神裕司

4. 調査経費 389,220円/8人=48,652円



5. 調査研究活動の概要

1. 特定非営利活動法人エコロジーオンライン

理事長：上岡裕 事務局長：上岡七生美

エコロジーオンライングループは、実践を通して、音楽、アート、エンターテインメントなど、様々なコンテンツを医療、介護、まちづくりの現場に届ける取り組みをしている。

① 認知症ケアの取組について

「オトトカラダ」プロジェクト

・音楽による認知症ケアの開発

携帯音楽プレーヤー（ipod）にそれぞれの個人にふさわしい楽曲や楽曲リスト、「パーソナルソング」をダウンロードして提供。

・コンテンツと能、介護の関連性の研究・実践

・高齢者介護に活用するコンテンツの開発

・認知症予防をテーマとするツーリズムの開発

・音楽による高齢者の居場所づくり

②カラフルファームの取組について

農林福祉連携事業

社会と農業をつなぐユニバーサル農業、農業には安全で安心な食料を生産する役割以外にも、様々な効用があり、植物、動物、土にふれることによって癒される心理的効果、身体を動かすことによって得られる身体的効果、植物が育っていく過程を理解する教育的効果。これらの価値を生かして事業するのがユニバーサル農業、農業の理解の促進と社会的価値の向上を図る。高齢者、障がいを持った皆さんに働いてもらう新たな雇用を作り、心理的、身体的な効能をもたらしていくカラフルファームプロジェクト

1、ユニバーサル農業を目指す農業法人との連携

就労支援施設からの雇用の受け皿となる農業法人の育成

2、就労支援施設が手がける農業の支援（就労支援センター「風の丘」）

利用者が作った野菜を販売するマルシェの活性化支援

3、就労支援施設で働く人材と農業生産法人とのマッチング

若手農家たちと就労支援施設との連携をコーディネート

4、里山保全事業での障がい者雇用の模索（里山ウエルネス研究会）

長野市飯山市での林福連携事業

「所感」

これからの高齢社会を見すえたときに、家族あるいは自分自身どうしても認知症と向き合わなければならない時代が来る、エコロジーオンライン「オトトカラダ」の取組みの有効性を理事長の上岡 裕氏から素晴らしい取組を聞き感動した。

認知症の高齢者に携帯音楽プレイヤーで好みに合わせた音楽を聞かせ、過去の記憶を取り戻そうとする認知症ケア「ミュージック&メモリー」アジアで初めて同市の高齢者福祉施設4か所で始められた。発語が増え、笑顔を見せるなど表情が豊かになったり、ある高齢者は、音楽を聴きながら歌を口ずさみオルガンを弾くしぐさを見せたり笑顔が増えたそうだ。

農林福祉連携事業

就労者支援施設からの雇用の受け皿となる農業法人の育成や、利用者が作った野菜を販売するマルシェの活性化支援などカラフルファームの取組みの説明を聞き、浜田市においても農林福祉連携事業に社会復帰促進センターとの連携も含め取組めないか検討する必要があると思った。

漫画家やカメラマン、ミュージシャン、カフェオーナー、建築家などが参加して森林保全、再生可能エネルギー、里山保全など様々な環境保全活動に取組み、そうした外部からのアイデアを取込むことが大切と感じた。「オトトカラダ」の取組みは全国に広がりつつある。

2. 官民連携のまちづくり「よこらぼ」について

説明者：富田能成（横瀬町長） 他、執行部・議会関係者

埼玉県秩父郡横瀬町。人口 8500 人の小さな町だが、クリエイターたちが頻繁に集う町になった。1年前から始めた官民連携プラットフォーム「よこらぼ」の事業の1つとして、クリエイターたちが講師となって中学生にキャリア教育をする。「横瀬クリエイティビティー・クラス」が半年間続けられたからだ。「よこらぼ」は、「横瀬町とコラボ（協力）するラボ（研究所）」という意味で、企業などからの提案を受けて町が持つ資源を共同で有効活用する仕組みである。すでに 22 件の「よこらぼ」事業が動きだしている。

所感

アイデアを外部から集め、企業からの提案を受けて町が持つ資源を共同で有効活用する仕組みで、すでに 22 件の「よこらぼ」が動き出し、東京圏、そこからヒト・モノ・カネ・情報を持ってくる仕組み、廃校や議場の貸し出しなど新たな取組みで注目を集め、元銀行マンである若い富田町長の発想で「よこらぼ」という新たなまちづくりの手法として注目され、同じやり方を続けていると町は縮小するばかり。町の 3 つの特徴、自然環境に恵まれている。町民の参加意識が高い。都心に特急で 74 分。を活か

した仕組みと説明され、町の副議長が同席し、市長は建物、橋などダメ、町長はソフト中心の町と取り合わない。金は国からアイデアは外部からが徹底していた。